

群 教 ゼ	F09 - 01
	平 15.217集

# 互いに認め合い、支え合える 学級づくりを目指して

- ピア・サポートモデルによる指導を取り入れて -

特別研修員 野口 順子 (明和町立明和東小学校)

## 《研究の概要》

本研究は、学級が児童にとって安心して居られる場となれば、不登校の予防につながるであろうと考え、児童の人間関係能力の向上と、仲間支援のあり方の土台作りを目指して、低学年の学級全体を対象とし、ピア・サポートモデルを取り入れた学級活動や学習活動を児童の実態に合わせて行ったものである。また、ほっとルームが持つ機能のうちの人間関係の育成に視点を当てて使用することで、ほっとルーム活用の基盤作りを考えた。

【キーワード：教育相談 ピア・サポートモデル 生活科 学級活動 ほっとルーム】

### 主題設定の理由

不登校問題への対応は、不登校児童及び保護者への援助・指導とともに、児童が不登校とならない学校づくりや不登校傾向を持つ児童生徒への未然の対応つまり、不登校への予防的・開発的な取り組みが重要である。

現在、本校には不登校児童はいないが、学校生活の中で多少の不安や不満を感じている者はいられる。また、全学年単学級であるため、交友関係が固定してしまっている様子が見受けられる。

児童が学校生活のほとんどを過ごすのが学級である。その学級が、どの児童にも心安らぐ場所となるようにすることが不登校の予防につながると思う。そのためには、児童の人間関係能力を向上させ、互いに認め合い、支え合っていける温かい学級をつくっていくことが大切であろう。

そこで、学級を対象とし、児童による仲間支援としてのピア・サポートモデルの活動を取り入れた学級活動や学習活動を児童の実態に合わせて、行っていきたいと考えた。特に、現在担任している2年生の学級で実施することにより、2年生なりの活動や気づきができていければ、自分で考えて行動したり、表現したりすることができるようになり、問題解決能力も高まってくるであろう。そして、この過程で、児童が互いに認め合い支え合えるような温かな人間関係の土台作りがなされ、学級が児童にとっての心安らぐ場となり、このような経験を積み重ねていくことによって、やがては不登校の予防にもつながると考え、本主題を設定した。

### 研究のねらい

学級の中で、児童の実態に合わせたピア・サポートモデルの活動を取り入れていくことで人間関係能力が向上し、学級が児童にとって安心して居られる場となり、不登校の予防にもつながることを明らかにしていく。

### 研究の内容及び方法

### 1 互いに認め合い、支え合える学級とは

ひとりひとりが友達の発言や行動に目を向け、その気持ちや考えを分かろうとするとともに、友達のために自分にできることは何かを考え、実行することができる学級であると考え。

低学年ではその発達段階から、自己中心的な考えが多く、問題解決にも担任やその他の大人を頼りがちだが、認め合い、支え合える学級を目指し、児童の実態に合わせたピア・サポート・プログラムによるトレーニングを体験させていくことで、他を思いやる温かな心情を育てるとともに、問題解決能力を高めていくことができると考える。

### 2 ピア・サポートモデルとは

ピア・サポートにおける仲間支援を児童の関係づくりと問題解決能力の育成ととらえ、ピア・サポート・プログラムを学習モデルとして、学級活動や学習活動の中に導入していく。

ピア・サポート・プログラムとは、学校のニーズと児童の実態に基づいたトレーニング・プログラムの作成の過程と、練習、計画、実践、振り返りの円環的な活動過程を螺旋的に継続して行うものである。指導者は、児童の実態把握、課題の明確化、指導方針の設定、指導・援助を行うが、その中に体験学習の過程を取り入れ、段階を踏むごとに児童の実態の把握を行い、それにあわせて次の過程のプランニングを行う。

低学年では小集団を多く体験させながら、素直に教師の指示に従えることの多い低学年の長所を生かして、教師が中心となって活動を進め、指導援助を行い、その都度成長を認めてやることを繰り返していくことで、計画性と意図性を持って、継続的に児童の問題解決能力と関係作りの土台を育成し、中高学年のより大きな集団での活動へつなげていけるものとする。

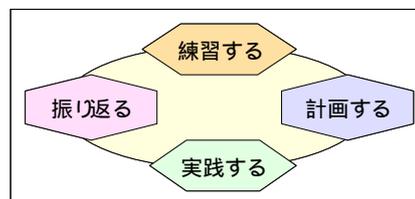


図1 ピア・サポートモデルの活動過程

### 3 場の設定

(1) トレーニングと実践を効果的に行うために、次のように場を設定した。

**学級活動や短学活、道徳の時間**：実践に向けてのトレーニングを行う場

**生活科、学校生活全般**：トレーニングで養った力を実践に生かす場

(2) 継続的、螺旋的に問題解決能力を育成するために、次のように場を設定した。

**教室**：全体でのトレーニング、プランニング、実践、振り返り

**ほっとルーム**：部分（グループ）でのプランニング、振り返り

ほっとルームは、児童・保護者が、落ち着いた場所で安心して教師に相談したり、援助を受けたり、コミュニケーションを深めたりすることができるよう設置、整備したものである。



ほっとルームの入口(熊のプレートは父兄の手作り)



相談コーナー

本研究では、ほっとルームを考える場とし、環境を変えることで、児童は教室での自分たちの活動を客観的に振り返って見ることができる。さらに、少人数で落ち着いて話し合うことにより、グループ内での認め合い、支え合いを確かめながら次への適切なプランニングもできるであろう。また、教師はクラスの集団から離れて、落ち着いた場所で個への対応ができ、より有効な援助・指導ができると考え、人間関係育成の基地とした。こうして低学年から慣れることによって、やがてほっとルームを「自分を見つける場」「冷静になれる場」「聞いてもらえる場」と認識できるようになり、不登校対策として設置したほっとルームの活用の土台作りを目指す。

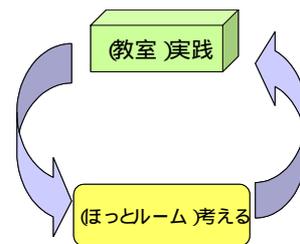


図2 場の設定

#### 4 研究の対象及び実施計画

小学校2年生 男子20名 女子16名 計36名  
学級活動や道徳の時間でのトレーニングを積み重ね、係活動や生活科の『みんなで作ろうフェスティバル』での実践へとつなげ、認め合い、支え合える学級を目指した人間関係の育成を行っていく。

係活動やフェスティバル準備の活動の中で、個々のグループによる振り返り・話し合いの場をほっとルームに設定する。

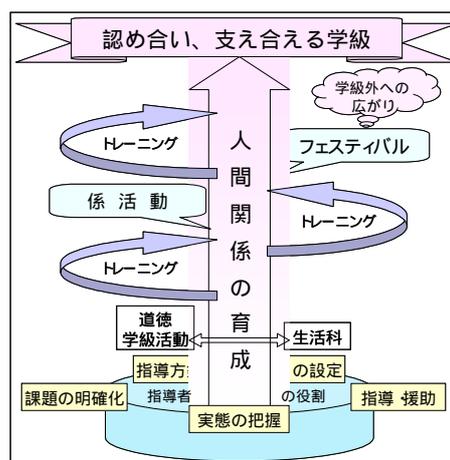


図3 本研究の全体構想図

表1 実施計画

時期	主な活動		実施場面
6月～9月上旬	学校のニーズと児童の実態把握（指導者） プログラムの作成（指導者）		
9月中旬～10月	トレーニングと実践	自己理解 あいさつゲーム 学級活動 わたしはわたし 短学活 だれのことでしょう 学級活動 さいころトーク 学級活動 他者との関わり練習 ふわふわ言葉とちくちく言葉 道徳 トラストウォーク 道徳 トラストフープ 学級活動 はい、ポーズ！ 短学活 いっしょに遊ぼう 道徳 友だちの良いところさがし 短学活、継続 どんな聞き方がいいのかな？ 学級活動 どう言えばいいのかな？ 短学活 じゃんけんれっしゃ 短学活	何のための係かな 何ができるかな 他にも何かできるかな
11月～12月	生活科での実践	グループ作り練習 もうじゅうがりグループ作り 学級活動 いろいろあくしゅ 短学活 あれ、はなれない 短学活 きょうどうかいが 学級活動 思いやりアクション 道徳 がんばったあなたへ 生活科	フェスティバル どんなフェスティバルにしようかな グループ作り(出したいお店) フェスティバル準備(グループ) 1年生に何をしてあげようか

## 研究の結果と考察

### 1 トレーニングの実践

学級活動(単学活も含む)や道徳の時間でのトレーニングの実践の概要は以下のものである。

表2 トレーニング実践の概要(主な活動について記す)

自己理解・他者理解	
内 容	児童の振り返り・教師の観察
あいさつゲーム じゃんけんで勝った人だけ挨拶をする。 負けた人は黙って見ている(勝ちじゃんけん) じゃんけんであいこになったら、お互いに挨拶をする。(あいこじゃんけん)	「かちじゃんけんの時より、あいこじゃんけんの時の方が気持ちよかった。」「あいこになるとうれしかった。」 できるだけたくさんの友だちとじゃんけんをしようとしていた。大きな声で挨拶をしていた。
わたしはわたし だれのことでしょう 自分の好きな食べ物、好きな遊び、得意なこと、などをカードに書く。 教師が読み上げるカードの内容から、誰のことがかを推理する。	「Aくんは、おもしろいといわざができるので、すごいと思った。」 「当ててもらえてうれしかった。」 自分のことや友だちのことを一生懸命に考えていた。
さいころトーク 好きなテレビ番組、将来の夢、家族やペット自慢などを番号をふったカードに書く。 グループになって、さいころの出た目と同じ番号の事柄について順に話す。	「好きなテレビばんぐみが、3人も同じだった。」 「Aちゃんは、たくさんペットをかっていて、よくせわをしているなあと思った。」 ゲーム感覚で楽しそうに話し合っていた。
他者との関わり方の練習	
(ふわふわ言葉とちくちく言葉) 言われると悲しくなったり、怒りたくなったりした言葉を思い出し、黒板に書く。 言われるとうれしくなったり、元気が出た言葉を思い出し、黒板に書く。 出された言葉を声に出して言う。	「ちくちくことばは、どなりたくなかった。」 「ふわふわことばは、やさしいかんじがした。」 「友だちにちくちくことばを言ってしまったことがあった。ごめんね。」
(トラストウォーク) 目かくしをして、一人で壁などをつたいながら歩く。 ペアになり、一人が目かくしをし、もう一人が声をかけ、手を引きながら歩く。	「一人だと、何があるのかわからなくてこわかった。」 「二人でやったとき、Bくんがゆっくり歩いてくれたので、こわくなかった。」 「Bくんが、手をつないで『そこが出っぱてるよ。』って教えてくれた。」
(トラストフープ) ペアになり、一人がフープの中に入り、もう一人がフープを上げ下げする。 4人のグループになり、片手の人差し指だけで1つのフープを支え、気持ちを合わせてフープを上げ下げする。	「フープに入った時、さいしょ、Cくんがはやくうごかしたからこわかったけど、そのつぎ、ゆっくりにしてくれたからこわくなくなっておもしろかった。」 「4人でやったら、ちゃんとまっすぐにならなくてむずかしかった。みんなで1, 2って言いながらゆっくりやったら、できたよ。」
(いっしょに遊ぼう) 友だちを誘う時は、どんなふうにしたらいいか考え、ロールプレイを行う。 相手に近づく・相手をきちんと見る・聞こえる声で言う・笑顔で言う・手を添えるなどを確かめる 2チームに分かれ、カードを引いて相手の子の名前が出たら「いっしょに遊ぼう」と言って自分のチームにつれてくる。	「Bちゃんがさそってくれたので、とてもうれしかった。」 「さそわれなくてよかった時、かなしかったけど、そのあとさそわれたのでよかった。」
(友だちの良いところさがし) 帰りの会で、その日の日直(2名)の良いところを全員がカードに書く(毎日続ける) カードを台紙に貼って、本人に渡す。 全員に日直が回った後は、自由に友だちの良いところをさがし、カードをなかよしポスト(教室に設置)	「いいところをたくさん見つけてもらったので、とてもうれしかった。」 「『Cくんは、やさしいところがいいところ』って書いてあったのが、うれしかった。」 毎日続けるうち、すぐに良いところが見つけれられたり、

<p>に入れる。後で担任が紹介して配る。</p>	<p>いろいろな面から良いところが探せるようになっていった。帰りの会で進んで友だちの良いところを発表できるようになった。</p>
<p>(どんな聞き方がいいのかな?)          児童一人を話し手として、教師が聞き手になり悪い聞き方をやってみせる。          良い聞き方を考え、話し合う。          体を向ける、相手を見る、あいづちをうつ、最後まで聞くなどを確かめる。          二人組みになり、話す役と聞く役を交代しながら良い聞き方をやってみる。</p>	<p>「よそ見をしたり手わるさをしたりしていると、聞いていないみたいでいやだった。」          「あいづちをうつと、よく聞いていてくれるきがした。」          「よく聞いていてくれるとうれしくなる。」          「あいてを見ながら聞いていると話がよくわかった。」</p>

### グループ作りと関わり方の練習

<p>猛獣狩りでグループ作り          「猛獣狩り」の歌を歌いながら自由に歩く。          歌の最後に教師が動物の名前を言う。その名前の文字数と同じ人数のグループを作って座る。          同じ子と組まないようにしながら繰り返す。          どうしたらみんながスムーズにグループを作れるか考える。          譲り合う、声をかけ合うなどをしながら繰り返す。</p>	<p>「ちがう子と組むのがむずかしかったけど、いろいろな子と手をつないでいっぱいグループができて、ぜんぶせいこうしてたのしかった。」          「長い名前だとなかなかグループになれなかった。」          「Cちゃんが、『おいで』って言ってくれた。」          「人づうが多すぎたので、自分でほかのグループに行った。」          「たのしくて、もっとやりたかった。」</p>
<p>共同絵画          4人グループになり、班で1枚の紙に協力して1匹の動物をかく。          交代で順番にかく。          終わりの合図があるまで、言葉は絶対に話さない。</p>	<p>「だまっているのがどれくらいむずかしいかがわかりました。はらはらドキドキしました。でもよくできてよかったです。」          「じゅん番が来て、みぶりで教えてもらいました。きょう力したから かわいいねこがかけました。おもしろかったです。」          無言で行ったことで、友だちの表情やしぐさをよく見てわかろうとしていた。          普段、意見が食い違って譲り合えないことの多いグループもジェスチャーを交えて仲よく活動することができた。</p>
<p>思いやりアクション          設定された場面でどんな言葉かけや行動をとればいいのか考え、グループで話し合う。          (街中、遊びに行く途中、道端に荷物をたくさん抱えたお年寄りが、座り込んでいる)          (公園、幼稚園児がひとりで泣いている)          役割を決め、グループごとにロールプレイを行う。          演技をした感想と見ていて気がついたことを発表する。</p>	<p>「おばあさんの近くに行って『だいじょうぶですか。』って言ったのがよかった。」          「『にもつを持ちましょうか。うちはどこですか?』って言ったのがよかった。」          「小さい子のそばにすわってあたまをなでてあげていた。」          「『だいじょうぶだよ。おうちにつれて行ってあげようか。』って言ったのがよかった。」          「みんながやさしく声をかけてくれたのでうれしかったです。」</p>

はじめは自分の思いをうまく言い表せない児童が多かったが、トレーニングを重ねるうち、次第に自分なりの意見を持ち、発言したり書き表したりできるようになってきた。

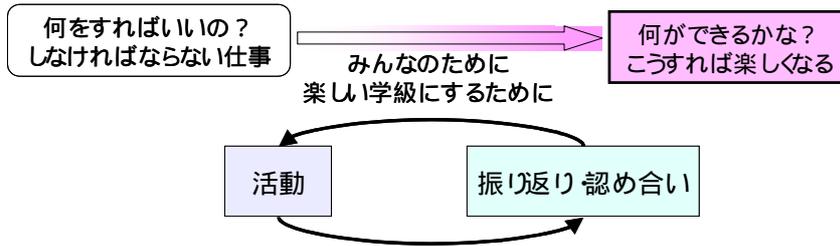
実態に合ったトレーニングを行いながら、良い所に目を向けさせ、繰り返し活動することで、友だちを批難する声が聞こえなくなり、肯定的な見方・考え方ができるようになっていくとともに、学級内に和やかな雰囲気広がっていった。

## 2 係活動での実践

学級での係活動は、「みんなのために、学級をもっとよくするため行う活動である」ということを気づかせ、児童が創意工夫し、協力して自主的に行う力を養うのに適したものである。

『かかりかつどうパワーアップさくせん』と題し、「何のための係か、どんな活動がしたいか」などを話し合わせた。

## &lt; かかりパワーアップさくせん &gt;



活動を振り返り、認め合うことができるよう『パワーアップかかりかつどう』に記入されたものを掲示して紹介したり、係活動の発表会を行ったりした。

(『パワーアップかかりかつどう』から)

花係：枯れた葉っぱや花を取る。お花の絵を描いてポスターを作ってみんに「お花を持ってきてください。」って言う。  
 せいとん係：机のせいとんをしながら、ごみや落し物を拾う。  
 体育係：休み時間に鉄棒教室や縄跳び教室を開いて、できない子に教えてあげる。  
 レク係：遊びは、みんなにやりたい遊びを聞いて決める。クイズは、簡単なものを選ぶ。

うまく機能していない係は、ほっとルームで今までの活動内容を振り返り、何ができるかと、分担などを話し合った。

(仲良しポストから)

「Dちゃんは、かかりをいつもやっていてえらい」「かかりはとてものがんばっている」

(学級活動での話し合い) 2学期の係活動はどうだったかな？

もっと楽しい学級にするために3学期にはどんな係があったらいいだろう？

「がんばっている人にメダルを作ってあげたい。」「配達は、気づいた人がやる。」「絵を描いたり、折り紙を折ったりして教室を飾りたい。」「読み聞かせをしたい。」

小さなことでも話し合って決めていった。繰り返すうち、自ら考え、自分なりの意見を持ち発言できる児童が増えてきた。また、「何のための係活動か」の問を常に念頭に置くことで活動内容が深まっていった。

また、「活動をしなさい。」と言わなくても、みんなのために何ができるかを考え、話し合い、工夫しながら活動できている係を賞賛し、紹介していくことを繰り返すうち、進んで考え、工夫して活動できる児童が増えてきた。さらに、「かかりは、とてものがんばっているからがんばり賞をあげよう。」などの発言が増え、互いに認め合う態度も身につけてきた。

## 3 フェスティバルでの実践(生活科)

認め合い、支え合える学級作りの1つのゴールとして、生活科の学習で行うフェスティバルを設定した。フェスティバルを作り上げる過程のグループでの活動の中で、協力の大切さを意識させ、活動の前後で振り返りと計画、支援を行っていった。さらに、仲間支援の学級外への広がりとして、招待した1年生への思いやりを確認していった。

## ・ 計画、準備での取り組み

資料1 パワーアップかかりかつどう

	パワーアップかかりかつどう かけり 名前 みんなのために こんなことを したいな
--	--

どんなフェスティバルにしたいか（児童のイメージ）

**みんなが楽しいフェスティバル**

**お客さん（1年生）が楽しい**

出し物やお店の工夫・発表の仕方・当日の案内の仕方

**私たち（2年生）が楽しい**

一人一人が力を出し切ること（自分の仕事に分り、取り組む力がある）  
それには、グループの協力が不可欠である。

十分に話し合って計画を立てる。イメージし、無理のない計画とする  
十分に話し合って仕事の分担をはっきりさせる。

**スーパー・スペシャル・フェスティバル**

・グループでの取り組み

お店の準備をしよう

「何をつくろうか。」「1年生が喜ぶかな。」

「仕事を分担しよう。」「いくつできたかな。」

「あといくつ作ればいいんだろう。」

「1年生にはむずかしいかな。」

「これをつけるともっと楽しいよ。」

お店の名前を決めて看板を作ろう

「おもしろい名前にしよう。」

「看板の字を書くから、絵を描いて色を塗ってね。」

お店を開こう

「どんな仕事があるかな。」「仕事の分担をしよう。」

「1年生が困っていたら何をしてあげようか。」

資料2 フェスティバルワークシート

**みんなで作ろうフェスティバル**

月 日 (名前 )

おみせの名前

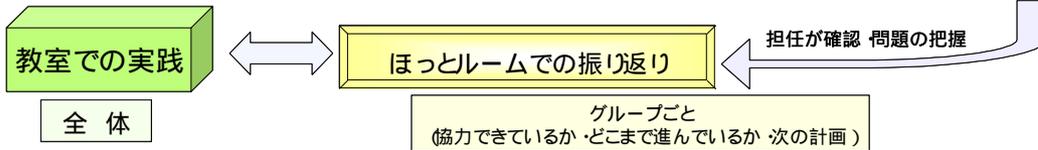
グループのみんなと きょうりよくして すずめられましたか。

できた
  すこしできた
  あまりできなかった
  できなかった

じゅんぴは どこまでできましたか。

こまったことは ありますか。

つぎの よてい



・フェスティバル本番終了後

**絵日記**・・・計画、準備、本番を通して、心にのこったことを書く

**がんばったあなたへ**・・・グループ内でお互いにメッセージを書く

**1年生や他のお客さんからの感想**を聞く

達成感 満足感

(絵日記から)

「みんなでアクセサリーをたくさん作りました。早くフェスティバルの日がきてほしかったです。いっぱい売れてよかったです。」

「つくえをはこぶのがたいへんだったけど、Hちゃんが手伝ってくれました。かたづけは、Mちゃんがつくえをはこんでいたので私が手伝ってあげました。」

「めいろうでおきゃくさんがよろこんでくれてよかったです。みんなできょう力してできて、フェスティバルが大せいこうで楽しかったです。」

「じゅんぴのとき、少しあそんじゃったけど、そのあとはがんばりました。今日はどきどきしたけどちゃんと言えたからうれしかったです。1年生は、よろこんでくれました。」

資料3 生活科ワークシート



(『がんばったあなたへ』から)

- 「1年生にやさしくやり方をおしえていたね。」  
「おり紙のおり方が分らなかった時に教えてくれてありがとう。」  
「めいるのしゅうりとごみひろいをがんばっていましたね。」  
「おきゃくさんをたくさんつれてきてくれたね。ありがとう。」  
「Rくんがいっしょにやってくれたから、魚とつりばりといしがきができておみせがひらけました。ありがとう。たのしかったね。」  
「Sちゃんがいてくれて、そうじやかたづけが早くできたよ。ありがとう。」  
「いつもいいアイデアを考えてはんの子に教えてくれたのでよかったです。」  
「Yくんが、おばけの絵をかくときに、とってもがんばって色をぬってたからできました。」

確かめる・活動する・振り返る・次の計画を立てるを繰り返すことで、自分たちですめることができるようになり、ひとりひとりが意欲を持って活動することができた。

児童は、ぬいぐるみや絵本が置かれ、じゅうたんや畳が敷かれた明るいほっとルームへ入るのが大好きである。普段は自由に入れないうえ、特別な部屋と認識し、学級から離れ個別または少人数で話し合うことで、落ち着いて真剣に取り組めた。ここで自分の思いを話したり、グループの友だちの気持ちを聞いたりしながら協力の気持ちが育ち、次の予定や分担をはっきりさせることで、スムーズにグループでの活動が進められるようになった。この結果、フェスティバル終了後の絵日記や『がんばったあなたへ』では、協力してできたことへの満足感や達成感が感じられる内容が書かれていた。

また、誠実で協力的な活動や活躍が友達から認められたことで、自信を持ち、以前より積極的に友達とのかかわりをもつようになった児童もいた。

### まとめと今後の課題

低学年を対象に行ったため、教師主導の形が多かったが、「どうなったらいいだろう。どうなりたいのか。」「そのためには、どうしたらいいだろう。」と常に児童に考えさせるようにした。また、助言を与える際も「こんなふうにしたらどうなるかな。」「こんな方法やあんな方法もあるよ。」と、児童に選択させていった。そして、児童の実態に合わせたトレーニングを積み重ねたことや、話し合いの時間を多くもち、思いや活動を認め、励ますことで、児童は自分たちの思いを重ね合わせ、自ら気づいたり活動したりすることができるようになってきた。

停滞や後退もあるが、経験を積み重ねることによって、さらにしっかりとした土台となり、高学年になった時にこの経験が活かされ、学校全体が温かい雰囲気にも包まれたものとなるであろう。今後もこの研究で学んだことをもとに、児童の人間関係の育成を目指した実践を続けていきたい。

### 主な参考文献

- ・中野 武房、日野 宜千、森川 澄男 編著 『学校でのピア・サポートのすべて』  
ほんの森出版(2002)
- ・國分 康孝監修 『ソーシャルスキル教育で子どもが変わる』小学校編 図書文化(1999)
- ・河村 茂雄編著 『グループ体験によるタイプ別！学級育成プログラム』小学校編  
図書文化(2001)